

山口歴史講座

(第60回山口地区文化祭記念事業)

勝楽寺 1300年の歴史

湖底のふるさとを振りかえって

日時：10月14日(日) 16時～18時

会場：山口まちづくりセンター(公民館)・ホール

定員：190名

申込み：9月7日(金)より受付開始

入場無料

※駐車場が少ないので、出来る限り公共交通機関をご利用ください

① 嘉永2年の『山口詣』から見た勝楽寺村佛藏院について

小山 裕さん(山口郷土民俗資料保存会副会長)

② 座談会 旧勝楽寺村からの勝楽寺移転について

竹中清悟さん(佛藏院勝楽寺二十四代住職)

斎藤重雄さん(山口郷土民俗資料保存会/元宮大工)

小山 裕さん(山口郷土民俗資料保存会副会長)

司会進行 神藤年三さん(山口まちづくり推進協議会会長)

裏面
予告

所沢市山口まちづくりセンター(公民館)

〒359-1145 所沢市山口 5004 番地

☎ 04-2924-1224

勝樂寺 1300 年の歴史～湖底のふるさとをふりかえって～

霊亀 2 年(西暦 716 年)現在は狭山湖(山口貯水池)の湖底に沈んだ勝樂寺村に朝鮮半島から渡来した王辰爾(おうしんに)一族の人々により阿弥陀如来・歡喜天をまつり勝樂寺聖天院を建立した時に始まり、天喜・治歴(1053 年～1067 年)の世には武蔵野一の霊場となり治承・寿永(1177 年～1183 年)の時代には源頼朝氏の祈願所となり七社神社別当にあたり十二院十二坊を数え、寺社ともに栄えました。

しかし文永 3 年(1226 年)鎌倉騒動がおこり五百騎の軍勢に焼かれ廢墟となりましたがその後、応永年間に勝般寺と号し再興を図り五院二社の再建をみましたが、戦乱の世がつづきまたも廢墟の悲運にみまわれました。時が移り、江戸時代の元和 7 年(1621 年)再興を図りましたが、文化元年(1804 年)またしても火災にあい坊舎を焼失しましたが文政 2 年(1819 年)には再建され、当時の伽藍は裏山に七社神社、境内に阿弥陀堂・薬師堂・地藏堂、そして大坊の池に日限地藏・歡喜天・弁財天がまつられ従昔のなごりをとどめていましたが、明治維新により寺社は分離され七社神社は山口中氷川神社に合祀されました。

そして大正・昭和の時代に至っては東京の水源地・山口貯水池(狭山湖)増築のために、寺院は昭和 4 年(1929 年)に勝樂寺村を離れ現在地、山口 1119 に伽藍を移築し今日に至ります。現在の伽藍や本堂など、どの様にして勝樂寺から現在地に移築したのか、現在の建築紹介本堂梁や柱など写真で紹介、当時の移築状況を探ります。

延久の鐘の行方『さわやか』歴史シリーズ(*)での紹介などを含めた山口詣に記された事柄に迫ります。

* 『山口まちづくり推進協議会だより さわやか』

シリーズ 行って見よう「山口の自然と歴史」もっと知ろう! 神藤年三 著